



学校図書館ボランティア ハンドブック

～ 子どもと本の架け橋に ～



神奈川県教育委員会



はじめに

子どもたちにとって学校図書館は、読書をとおして様々な知識を吸収するとともに、豊かな感性を育む大切な場所です。

「かながわ読書のススメ～第四次神奈川県子ども読書活動推進計画～（平成31年3月策定）」の中でも、「学校図書館の利活用の促進」を取組の1つとして取り上げ、学校図書館を学校における学習活動や読書活動の拠点として位置づけています。

そこで、平成28年3月に作成した「学校図書館ボランティアハンドブック」を改訂し、学校図書館ボランティアの皆さんに子どもと本をつなぐ架け橋として、さらに多くの支援をお願いしたいと考えています。

本書は、学校図書館ボランティアの役割や心得、具体的な活動事例を紹介するなど、これから学校図書館で活動を始めようとする方、あるいは、始めたばかりの方のための入門書となっています。

また、今回の改訂では、読書の楽しさを伝える取組である読み聞かせに重点を置くとともに、新たに高等学校の事例をコラムとして掲載しました。

学校図書館は、未来を担う子どもたちのため、それぞれの学校で多くの方々の熱意と工夫のもとに運営されています。学校図書館ボランティアとしての第一歩を踏み出すにあたり、本書をご活用いただければ幸いです。

令和3年3月

◆ も く じ ◆

はじめに

- ① あなたの力を学校で活かしてみませんか？……………1
- ② 学校図書館の機能ってどんなこと？……………4
- ③ 学校図書館ボランティアの心得ってどんなこと？……………5
- ④ 学校図書館ボランティアの活動内容は？……………7
- ⑤ 本の分類と配架の仕組みはどうなっているの？……………9
- ⑥ 本の修理はどのようにするの？……………11
- ⑦ 読み聞かせをはじめの方へ……………13
- ⑧ 事例紹介……………17
- ⑨ 語句の解説(本文中の*を付した用語)……………23
- ⑩ 参考資料……………24

①あなたの力を学校で活かしてみませんか？

自らの人生をより有意義なものにするために、多くの方が様々なボランティア活動を行っています。

学校においても、多くのボランティアの方々に支援をいただきながら、魅力ある学習環境づくりに努めており、学校図書館ボランティアもその一役を担っています。

子どもたちの成長にとって、読書活動は言葉を学び、豊かな感性や表現力、考える力を育み、創造力を豊かにするうえで、欠くことのできないものです。そして、学校図書館は主体的な読書活動の場所として、また、学びの場所として、子どもたちの育ちを支える重要な機能があります。

学校の先生たちや地域の仲間たちと力を合わせ、学校図書館の充実を図り、将来の担い手である子どもたちに読書の素晴らしさを伝えてみませんか。



「地域学校協働活動」と「社会に開かれた教育課程」

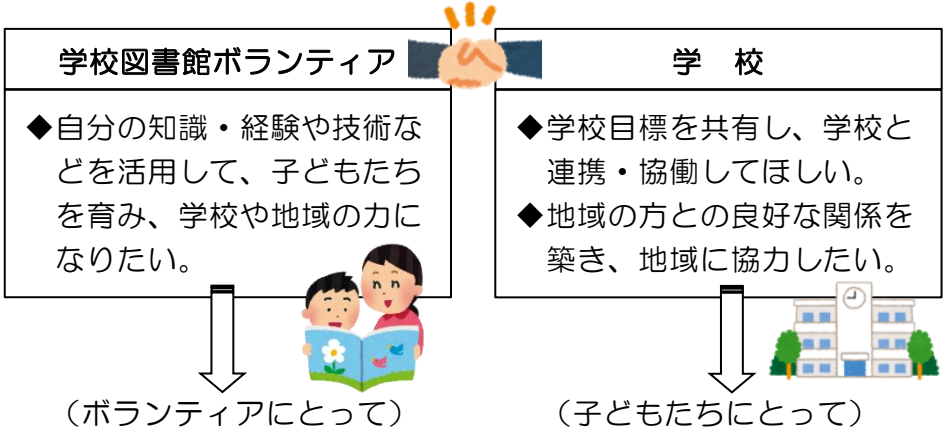
地域と学校とが相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動である「地域学校協働活動」は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えています。

平成 29 年 3 月（高等学校は平成 30 年 3 月）に新学習指導要領が告示され、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」の理念が示されました。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「地域学校協働活動」がますます重要になっています。

【 学校図書館ボランティアと学校との連携・協働 】

学校図書館ボランティアの活動は、「地域学校協働活動」の1つであり、「社会に開かれた教育課程」の実現につながるものです。



◆自分の知識・経験や技術などを役立てることで、社会に貢献している充実感を得て、生きがいを感じることができます。

◆学習を支援する活動をおして、子どもたちからも多くのことを学ぶことができます。

◆学校での教育活動や子どもたちの様子が分かり、新たな学校図書館づくりの担い手として、学校の活性化に貢献することができます。

◆子どもたちの成長する姿を身近に感じることができます。

◆読書環境が充実するだけでなく、ボランティアの専門的な知識・経験や技術にふれることにより、学習意欲が高まり、「生きる力」を身につけることにつながります。

◆地域のボランティアに接することで、ボランティア活動に関心を持ち、ボランティア活動に参加するきっかけとなったり、地域の一員としての自覚が芽生えたりします。



【 ボランティアの4つの原則 】

ボランティアには、大切な4つの原則があります。

○ 自発性

強制や義務で行うものではありません。自らの考えで進んで行う活動です。

○ 公共性

自分や特定の人のためのものではありません。地域や社会全体のために行う活動です。

○ 無償性

収入を目的とするものではありません。自らの時間や能力を無償で提供する活動です。（活動に必要な経費は受け取るという有償ボランティアの考え方もあります）

○ 先駆性

考える力と行動力が求められ、社会をリードする活動です。

ボランティアをする側も受け入れる側も、だれもが気持ちよく活動できることが大切です。



②学校図書館の機能ってどんなこと？

学校図書館は、「読書センター」機能、「学習センター」機能、「情報センター」機能の3つの機能をもっています。

1 「読書センター」機能

- ◆子どもたちが読書に親しむきっかけをつくり、世の中の様々な出来事に興味・関心を持たせる。
- ◆読書に関するアドバイスを行う。
- ◆学校図書館でのマナーや本の扱い方を教える。



2 「学習センター」機能

- ◆調べ学習の場を提供する。
- ◆授業に必要な資料や情報を提供する。
- ◆授業で扱われた作品や作者に関する資料を提供する。

3 「情報センター」機能

- ◆情報活用能力*を育成する。
- ◆学校行事や地域行事に関する情報を提供する。
- ◆公立図書館や博物館、美術館などの社会教育施設や他校の学校図書館と連携し、多様な情報を提供する。

これら3つの機能を十分に発揮することで、学校図書館は「学校教育の中核」としての役割を果たすよう期待されています。

上記の3つの機能以外にも、子どもたちの「心の居場所」としての機能もあります。学校図書館は、子どもたちが1人で過ごしたり、様々な人たちとの関わりをもつことができたりする場でもあります。



③ 学校図書館ボランティアの心得ってどんなこと？

(1) 学校図書館ボランティアの役割について

学校図書館は、学校の教育方針のもと、司書教諭*による経営や指導面と学校司書*によるサービスや技術面が互いに連携しながら運営されています。そのため、ボランティアの活動は、その補助が中心となります。必ず司書教諭や学校司書と次のことを確認しながら進めていきましょう。

- ◆学校図書館の運営方針や特色、子どもたちの様子について
- ◆読書活動のねらいについて
- ◆活動にあたって配慮すべきことについて
- ◆活動内容と進め方について

(2) 活動するにあたって

- ◆子どもの人権や個人差に配慮しましょう。
 - ・適切な言葉をつかい、公平に接する必要があります。もちろん体罰は法律で禁止されています。
- ◆子どもや先生のプライバシーを守りましょう。
 - ・活動中に知り得た情報（例：利用中・貸出し中の本のタイトル、先生から叱られたこと、怪我や病気のこと等）を、外部に口外することやSNSで発信することはやめましょう。
 - ・広報用や情報共有のために学校内を撮影する場合は、学校に許可をとりましょう。
- ◆活動のふりかえりをしましょう。
 - ・ボランティア同士で、効果的な活動や子どもたちの様子などについて情報を交換し、学ぶ姿勢をもちながら活動しましょう。
 - ・ボランティア日誌を作り、その日の活動内容、参加人数、他のボランティアへの申し送り等を記入しましょう。



- ◆子どもの安全に配慮した活動を心がけましょう。
 - ・子どもが怪我や事故にあった場合は、速やかに近くの先生を呼び、対応することが大切です。司書教諭や学校司書にも報告しましょう。
- ◆政治や宗教に関しては、中立の立場が求められます。
- ◆営利目的の活動は認められません。
- ◆著作権に配慮しましょう。
 - ・POPや掲示物等に既存のキャラクターを使用する時や、市販されている絵本を大型絵本や大型紙芝居等にするときは、著作権者の許諾を得る必要があります。

著作権について詳しく知りたい方はP24参照

(3) 子どもたちを理解するにあたって

- ◆子どもたちとのコミュニケーションを大切にしましょう。
- ◆子どもたちとの出会いを大切にしましょう。
- ◆あせらず、ゆっくり子どもたちを理解するよう努めましょう。
- ◆子どもたちの様子、周りの状況等に気を配りましょう。

(4) その他

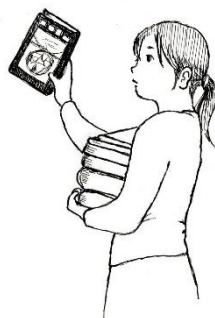
- ◆学校に訪問する際は事前に連絡を入れましょう。
- ◆学校では、子どもたちの安全確保を最優先に教育活動を行っています。訪問者名簿の記入、名札の着用、職員室や事務室へのあいさつをしましょう。
- ◆約束や決められた時間は必ず守りましょう。
- ◆もしもの事故などに備え、保険に加入する場合があります。担当の先生に相談しましょう。

④学校図書館ボランティアの活動内容は？

ボランティアの活動内容は、学校の状況によって様々ですが、主な活動内容は「読書環境の整備」と「読書活動の実践」の2つに大別されます。

(1) 読書環境の整備

- ◆書架や部屋の掃除
- ◆本の配架（P9～10参照）
- ◆新着本の装備
- ◆本の修理（P11～12参照）
- ◆学校行事や季節に合わせた壁面飾り
- ◆話題の本や新着本のコーナーなどの設置
- ◆読書案内のパンフレットやポスターの作成
- ◆本の受入や除籍作業の補助



(2) 読書活動の実践

- ◆読み聞かせ（P13～16参照）
- ◆紙芝居
- ◆素話*
- ◆ブックトーク*
- ◆朗読
- ◆図書委員会等との連携による、子どもたちの自主的な読書活動の支援



【 ある小学校の学校図書館ボランティアの活動例 】

ボランティアは次の活動を複数で行ったり、交替して行ったりしながら、都合のよい時間帯に無理なく活動しています。

子どもの活動	時程	ボランティアの活動
朝の時間	8:20	朝の読み聞かせ係（朝の時間） クラス等に入っでの読み聞かせ
授業時間	8:40	環境整備係（授業利用のない時間） 館内の清掃、書架の本の整備 破損した本の修理、新着本への装備
中休み	10:20	季節に合わせた掲示物の作成や展示 話題の本や新着本のコーナー作り
授業時間	10:40	読書案内のパンフレットやポスター作成 司書の補助 司書がない場合、授業で使う本の準備
昼休み	12:40	カウンター補助係（中・昼休み） 司書がない場合、本の貸出し・返却の補助
授業時間	13:10	
下校	15:00	イベント係（昼休みなど不定期） 季節のお楽しみ会として、読み聞かせ・紙芝居・素話・ペープサート*・パネルシアター*・人形劇などの上演
<p>ボランティア日誌を作り、活動内容等を記入 （ P 5 （ 2 ） 「活動するにあたって」参照 ）</p>		

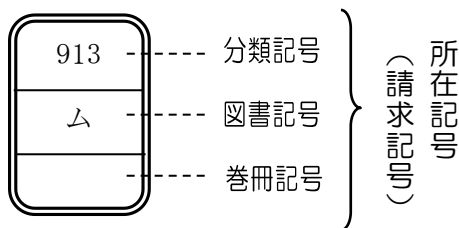
⑤本の分類と配架の仕組みはどうなっているの？

子どもたちが簡単に本を探ることができるようにするためには、学校図書館の本がいつも正しい場所に置いてあることが大切です。

学校図書館の本の並べ方にはルールがあります。そのルールを理解して、子どもたちが使いやすい学校図書館にしましょう。

(1) 本の分類

学校図書館の本の背表紙には下記のようなラベルが貼ってあります。ラベルには所在記号（請求記号）が書かれています。



[1 段目] 分類記号といい、本の内容によって「日本十進分類法（NDC）」に基づいて分類しています。

[2 段目] 図書記号といい、著者や書名の最初の文字を記載しています。

[3 段目] 巻冊記号といい、巻数などを記載しますが、記載しない場合もあります。

* 図書記号と巻冊記号を一緒に記載して、ラベルを2段にしている学校図書館もあります。

蔵書点検のお手伝いを始めて3年経ちました。
不明本もなくなり、スッキリ綺麗に配架され、
子どもたちにとって快適な図書館作りに貢献できていることにやりがいを感じています。

(中学校 ボランティアの声)



(例) 椋鳩十^{むくはとしゅう}の作品「大造じいさんとガン」の場合

*分類記号は**913**になります。

0	総記	5	技術・工学	90	文学	95	フランス文学	910	日本文学	915	日記・書簡・紀行
1	哲学・宗教	6	産業	91	日本文学	96	スペイン文学	911	詩歌	916	記録
2	歴史・地理	7	芸術	92	中国・東洋文学	97	イタリア文学	912	戯曲	917	箴言・寸言
3	社会科学	8	言語	93	英米文学	98	ロシア・ソヴィエト文学	913	小説・物語	918	作品集
4	自然科学	9	文学	94	ドイツ文学	99	その他の諸文学	914	評論・エッセイ	919	漢詩文・日本漢文学

(第1次区分)
10区分

(第2次区分)
100区分

(第3次区分)
1000区分

*図書記号は、著者である椋鳩十の頭文字をとって「ム」になります。

(2) 本の配架

- ◆図書館の本を書架に並べることを配架といいます。本は分類記号順に左から右に、上から下に並べます。
- ◆同じ分類記号の場合は、図書記号の五十音順に、同じ図書記号の場合には巻冊記号順に並べます。
- ◆子どもたちが使いやすいように、新着本コーナーや、季節、行事のテーマ展示をするなど、工夫している学校もあります。



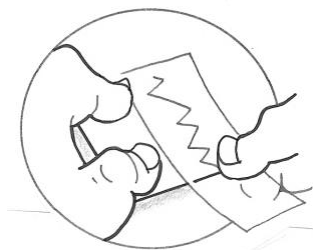
*図書館システム*を活用して、本を管理している学校もあります。

⑥本の修理はどのようにするの？

子どもたちが本に親しむためには、本の修理もとても大切な活動です。破損した部分を見つけたら、早いうちに修理をしましょう。

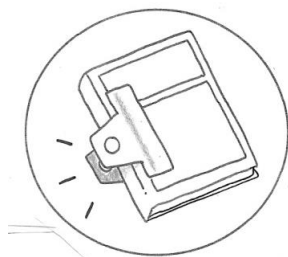
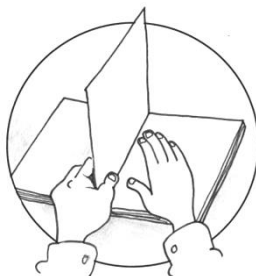
(1) 破れたページの修理

- ①破れた部分の断面に、水糊か水でうすめた木工ボンドを筆で塗り、貼り合わせる。（破れが小さい場合は、②の補修用テープを貼るのみ）
- ②両側（破れた部分の表と裏）から、補修用テープで貼り合わせる。



(2) はずれたページの修理

- ①はずれたページの接合部分に、水糊か水でうすめた木工ボンドを筆で少なめに塗る。
- ②ページがずれないように、本の奥にしっかり差し込み、丁寧に貼り合わせる。
- ③本を閉じ、クリップや輪ゴムで固定し、糊を乾かす。



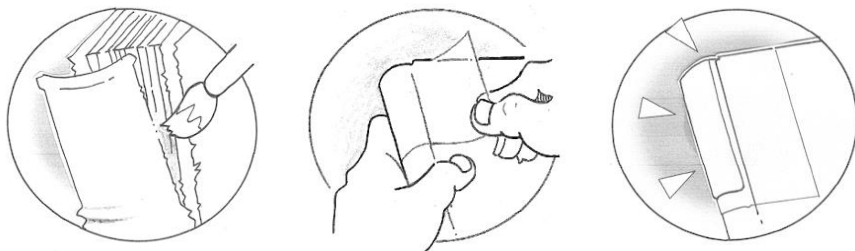
(3) はがれた背表紙の修理

①はがれた部分に、木工ボンドを塗り、貼り付ける。

(破れが小さい場合は、②の補修用テープを貼るのみ)

②補修用テープを適当な大きさに切り、破損部分をくるむように貼り付ける。

③背表紙がなくなってしまった場合は、厚紙をたしてから、補修用テープでくるんで貼り付ける。



(4) 色あせした背文字の修復

◆油性マジックで上書きをする。

◆パソコンなどで打ち出した背文字のラベルを貼る。

本の修理のポイント

- 修理にセロハンテープは使いません。劣化、変色して本を汚してしまいます。
- 早いうちに修理できるように、破損した本を入れる箱を用意するとよいでしょう。



学校司書から「心強い」と感謝されます。
自分自身も本がより好きになりました。
(小学校 ボランティアの声)

本の修理について詳しく知りたい方はP24参照

⑦読み聞かせをはじめの方へ

(1) 本の選び方

- ◆担任の先生や司書教諭、学校司書に随時相談するようにしましょう。
- ◆どこで、どのくらいの年齢の子どもたちを対象に、どのくらいの人數で、何分間読み聞かせを実施するのかを把握することが重要です。この状況によって選ぶ本が決まります。
- ◆大人が面白いと思う本に、子どもたちが興味を示すとは限りません。
- ◆小学校では絵本を用いることが一般的です。
- ◆ある程度の大きさがあり、一番後ろの人まで見える本を選びましょう。
- ◆授業の内容に関わるもの、時事に関わるもの、子どもたちの中で話題になっている本を選ぶのもよいでしょう。
- ◆読み聞かせを経験されている方に尋ねて参考にするのもよいでしょう。
- ◆ブックリストを活用しましょう。
 - ・県教育委員会では、「かながわ 子どものためのブックリスト」を作成しています。本を選ぶときの身近な手引きとして、ぜひご活用ください。

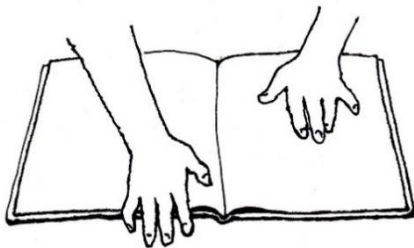
「かながわ 子どものためのブックリスト」は、県教育委員会ホームページの中の「かながわ読書のススメ」からダウンロードすることができます。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/dokushonosusume.html>

*市町村立図書館でも、子どものためのブックリストを作成しているところがあります。図書館の職員に相談し、実際に本を手にとって読んでみることも有効です。

(2) 読み聞かせの事前準備

- ◆読む本を本番前にしっかり読み込んでおきましょう。
- ◆本のページが平らになるように開き癖をつけておきましょう。
 - ・本が膨らんでいる状態だと、子どもたちにとって絵が見えにくくなり、読み手にとって本が持ちにくくなります。



- ◆実際に本を持って、声を出して読む練習をしましょう。
 - ・字の見えにくい部分を確認できたり、横目を使って本を読むことの難しさが分かたりします。
 - ・ボランティア仲間や家族にみてもらうのも1つの方法です。
- ◆どのくらい時間がかかるか確認をしておきましょう。
 - ・読み聞かせ当日は時間が限られています。
- ◆本番緊張しそうな人は、あらかじめ台本を作りましょう。台本を作っておくと、安心して本番に臨むことができます。
- ◆読み聞かせ前に担任の先生や司書教諭、学校司書と打ち合わせをしましょう。

< 会場のセッティング >

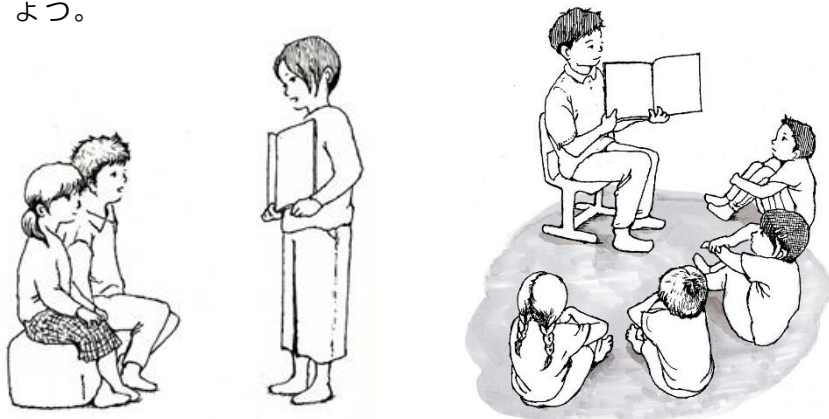
- ◆黒板の文字や掲示物等の子どもたちの気が散るものは視界から外しましょう。外す際は学校に確認しましょう。
- ◆日差しの反射に気をつけましょう。
- ◆外からの音が入らないようにしましょう。

— 特別支援学校の場合 —

特別支援学校では、担任や担当者から子どもたちの特性を事前に聞き取りをすることが特に重要です。

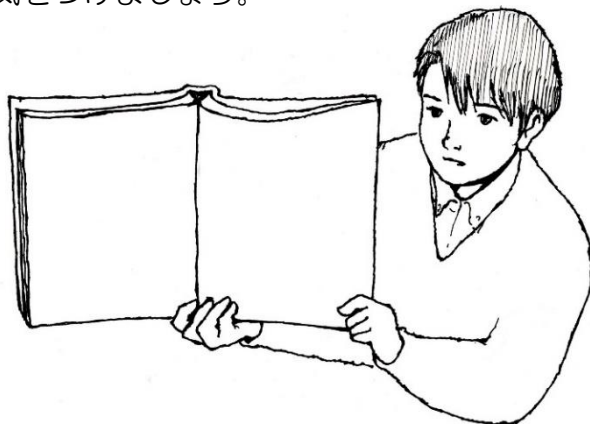
(3) 読み聞かせの仕方

- ◆本の位置は、子どもたちの目線より少し上になるようにしましょう。



<子どもが椅子に座る場合は立つ> <子どもが床に座る場合は椅子に座る>

- ◆どの子どもたちからも本が見えるように持ち、手で絵を隠さないよう気をつけましょう。



- ◆子どもたちと一緒に絵本を楽しむ気持ちで、心を込めて読みましょう。
- ◆子どもたちの表情や様子に気を配りながら読むことを心がけましょう。
- ◆肩の力を抜いて、よい姿勢で、部屋の隅にいる子どもたちにも聞こえる声の大きさと読みましょう。

- ◆子どもたちが聞き取りやすいように、また、話の内容を理解しやすいように、丁寧にはっきりと読みましょう。読む速さやページをめくるタイミングにも気をつけましょう。大きさに読んだり、極端な声色を使ったりする必要はありません。
- ◆絵本の絵も多くのことを語っています。表紙や裏表紙も見せてあげましょう。
- ◆読み聞かせの「はじめ」と「おわり」をしっかりと示しましょう。
- ◆読んでいる途中や読み終わったあとに、自分の考えを押しつけないように気をつけましょう。
- ◆読む前や読み終わったあとに、内容の説明や解釈を加えないようにしましょう。

子どもたちが読み聞かせを聞いてくれると嬉しいです。（小学校 ボランティアの声）



朝の読み聞かせは、子どもたちと直接接することができる貴重な時間です。学校司書と相談して選書しますが、子どもたちの目が輝くと嬉しくなります。私は地域でまちづくりの活動をしていいますが、地域で子どもたちに出会うと挨拶をしてくれます。（小学校 ボランティアの声）

司書教諭・学校司書やボランティア仲間と勉強会などを開き、よりよい読み聞かせのために常に学ぶ姿勢をもちましょう。

*読み聞かせの他にも、素話や朗読などの方法もあります。子どもの発達の段階に応じて工夫をしましょう。

読み聞かせについて詳しく知りたい方はP24参照

⑧事例紹介

私の学校の良いところは 「読み聞かせ！」

【ボランティアの名称】 おっこしお話会、図書ボランティア

【活動している学校名】 藤沢市立大越小学校

○団体の紹介

藤沢市立大越小学校で活動する「おっこしお話会」と「図書ボランティア」のボランティアグループは、子どもが好き・本が好き・図書館が好きという地域の仲間が集まり、専門員（学校司書）や教職員、関係団体と連携し合い、長年学校図書館を支えています。

○主な活動内容

<おっこしお話会>

- ・月に1回昼休みに、図書館やパソコン教室等で、紙芝居、絵本の読み聞かせ（大型絵本も含む）、人形劇等を行います。
- ・年に1回授業時間内に、藤沢市の善行市民センターで活動するボランティア団体「ポシェットさん」と連携し、素話・人形劇・紙芝居等を行います。

<図書ボランティア>

- ・専門員（学校司書）の補佐、本の整理・修理、選書等をします。
- ・「おっこしお話会」で人手が足りない時に協力しています。

ボランティアの声

- ・大越小の子どもたちが、他校の子どもから「大越小の良いところは？」と質問を受けた時、「読み聞かせ！」と答えた子どもがいたという話を聞いて嬉しかったです。（おっこしお話会）
- ・10年程前のことですが、図書館で作業をしていると、次第に手伝ってくれる子どもがあらわれるようになり、「ミニボラ」と名付けました。ラミネートした小さい感謝カードをプレゼントすると「ミニボラ」たちは喜んでくれました。（図書ボランティア）

地域とともにつくる学校図書館

【ボランティアの名称】 真鶴町小中学校PTA図書ボランティア

【活動している学校名】 真鶴町立まなづる小学校

○団体の紹介

真鶴町の読書ボランティア「おはなしわっくわっく」の活動を参考に、まなづる小学校PTA図書ボランティアが、平成24年に設立されました。メンバーはPTAの保護者だけでなく「おはなしわっくわっく」のメンバーや地域の方々も参加し、子どもたちに多くの本を知ってもらい、興味をもって読んでもらうこと、また人の話を共感的に聞けるように想像力を高めることをめざしています。

○活動内容

- ・月1、2回、朝の時間に、各学年・学級で読み聞かせを行い、読書週間に合わせて昼休みに読み聞かせ会を開いています。
- ・担当教員と相談し子どもたちにとって探しやすい本の配置を考え、年3回程度の書籍整理を行っています。また司書資格を持つ人や修繕を得意とするボランティアにも協力してもらい、学校図書館内の模様替えを行いました。季節ごとの飾りを作成しています。
- ・子どもたちや先生、ボランティアから、新しい本のリクエストを募り、魅力的な本であふれるよう心がけています。
- ・「まなづるコーナー」を設置し、子どもたちが自分たちの地域を学び、地域に愛着をもってもらえるような環境整備を進めています。

ボランティアの声

読書活動に関心があり、先輩から誘われて始めました。読み聞かせで、子どもたちから「楽しかった」「また読んでほしい」という声を聞くと、次も頑張ろうと思い、練習に励んでいます。活動していると、子どもたちの本への関心が高まっていることを実感しています。

GO TO 図書室～心地よい「居場所」をめざして

【ボランティアの名称】綾北中学校図書ボランティア

【活動している学校名】綾瀬市立綾北中学校

○団体の紹介

2002年に学校が放課後も図書室を開放するためのボランティアを募ったことからスタートしました。初年度は1人しかいなかったボランティアですが、多い時は在校生と卒業生の保護者で20人程いたこともあります。現在は卒業生の保護者10人程で活動しています。

○活動内容

- ・昼休みと放課後の図書室開放や図書の整理、PTA主催のフェスティバルでの古本市などを行っています。古本市を生徒は楽しみにするとともに、地域からは書籍の寄贈に協力を得ています。
- ・数年前に学校司書が配置されてからは、学校司書との連携で図書の貸出しや読書フェアを行っています。また、週1日学校司書が不在となる放課後は、ボランティアが図書室を開放し、それにより毎日欠かさず開放ができています。20年近くになる継続的な取組により、図書室が毎日開放されることが当たり前となり、子どもの居場所づくりにつながっています。

ボランティアの声

- ・子どもたちの姿を見られたり一緒に話せたりすることがとても嬉しいです。スマートフォンの普及などにより本を読む機会は減っていますが、活字を読んで言葉から想像し、豊かな気持ちを育むことはとても大切なので、子どもたちがそのような機会をもつことにつながればと思います。
- ・子どもには色々な居場所と色々な関わりがあるとよいと思うので、学校図書館とボランティアがそのような役割を担えたらと思います。

「本で面白い」広めたい

【ボランティアの名称】 平塚市立山城中学校図書ボランティア

【活動している学校名】 平塚市立山城中学校

○団体の紹介

子どもが本に親しめるように環境を整え、読書意欲を高めることを目的に、在校生及び卒業生の保護者で月に2～3回活動しています。

○活動内容

- ・図書整備や蔵書点検をするとともに、授業参観の際の図書室開放に協力し、保護者に図書室を見てもらったり、参観中に生徒の弟妹を連れてこられるようにしたりしています。
- ・生徒が幼稚園や保育園で職業体験を行う際には、「中学生向け絵本の読み聞かせ講座」として平塚市中央図書館から講師を招いて講習会を開催しています。
- ・「朝の読書の時間（ゆるぎ）の放送朗読会」として、年3回、各季節にあった話を全校生徒に向けて、放送で読み聞かせをしています。図書担当の総括教諭の依頼で始まった放送朗読会は、選書、選曲、配役決め、放送室での録音、話をまとめたプリント作成、学校から出版社への著作物利用の許諾申請など、学校や司書教諭との協力により作り上げています。



ボランティアの声

- ・生徒たちが楽しそうに本を手にとっている姿を見た時にやりがいを感じます。
- ・「ゆるぎの放送朗読会」放送初日の朝、緊張しながら見学に行った各教室で、生徒たちがプリントの文字を目で追いながら静かに放送に聴き入り、終了の音楽と同時に、自発的に先生や友だちと感想を話している姿にとっても感動しました。本の持つ力を感じた忘れられない朝の風景となりました。

ともに生きよう、ひらつか

- 【ボランティアの名称】 平塚点訳赤十字奉仕団
(リーディングサービス事業部)
- 【活動している学校名】 県立平塚盲学校

○団体の紹介

盲学校の文化祭に招待されたことをきっかけに、1963年に平塚点訳奉仕団が発足、翌1964年には「目の不自由な子に本を読んであげよう」とリーディングサービスを始めました。

当時、生徒のほとんどが寄宿舎に入っており、帰省できない生徒も多くいたことから、家庭や学校で担いきれない面を補う必要があったことが発足のきっかけで、読書の他に戸外での遊びや社会見学等も行っていました。

後に日赤奉仕団に加盟し、平塚点訳赤十字奉仕団と改めました。

現在のリーディングサービス事業部は8名で、視覚障がい者が自立できる社会の構築をめざして様々な活動に取り組んでいます。

○活動内容

盲学校寄宿舎生に、毎月2回、18時から19時まで、対面朗読を行っています。寄宿舎生の好きな本や教科書などを読んでいます。

ボランティアの声

月に2回、各1時間の本読みですが、私にとって充実した時間で、この時を楽しみにしています。本読みが終わると担当している生徒は、次はいつかと確認をします。その口調から、生徒たちもこの本読みをととても楽しみにしているということがわかります。リーディングサービスは心と心のふれあいから始まり、読書の楽しみを贈る活動です。視覚障がい者の生活と自立の道に、もっと光が当たりますようにという願いとともに、57年を経て今日に続いています。

－ 高等学校ではこんな活動をしています －

＜ 県立市ケ尾高校PTA 図書ボランティア ＞

ディスプレイ棚の飾り付け、特別企画冊子・図書ボランティア新聞の発行、学校図書館の本を紹介するポスター・消しゴムのカス入れ・ブックカバー・しおりの作成等、幅広く活動しています。図書ボランティア自身が楽しみながら、生徒の読書活動を応援しています。

＜ 県立湘南高校PTA 図書委員会 ＞

PTA・教職員からの推薦図書や2020年度創設「湘南高校文学賞」の全応募作品（生徒たちの作品も含む）を掲載した「図書委員会だより」を発行しています。自分たちでゼロから企画するのが面白いです。県内のPTAの中でも珍しい図書委員会、湘南高校PTAの委員会の中で人気があります。

＜ 相模女子大学高等部 読み聞かせボランティア ＞

読み聞かせボランティアが高等部の生徒に絵本の読み聞かせの仕方の指導をしています。生徒は学んだことを活かし、同じ敷地内にある幼稚部の園児に絵本の読み聞かせを実践します。幼稚部への読み聞かせをやりたくて入学する生徒もいます。

高校生の中には保育士などの仕事につながる生徒もいるので、この先の楽しみがあります。
(高等学校 ボランティアの声)



⑨ 語句の解説

ページ	語句	解説
4	情報活用能力	問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力
5	司書教諭	学校図書館の経営及び指導面を担当する教員
	学校司書	学校図書館サービスと技術的な面を担当する職員
7	素話（すばなし）	話のすじを覚えて語る手法（「お話」「語り」「ストーリーテリング」ともいう）
	ブックトーク	あるテーマに沿って、複数の本を紹介すること
8	ペープサート	人や動物などを紙に描いて切り抜いたものを棒に付け、背景の前で動かして演じる人形劇のこと
	パネルシアター	布を貼ったボードに、不織布で作成した絵を貼ったり外したり位置を変えたりしながら物語を演じる人形劇のこと
10	図書館システム	学校図書館の様々な作業（蔵書の管理・貸出し・返却・検索など）を図書館管理ソフトを使用してコンピュータで行う仕組み



⑩参考資料

学校図書館ボランティアの活動について、より理解を深めたい方は、以下の書籍とホームページが参考になります。

< P 6の著作権について >

- ☛ 『みんなで学ぼう学校教育と著作権～著作権の基本から指導まで～』

森田盛行、全国学校図書館協議会（2019）

< P 11～12の本の修理について >

- ☛ 『図書館のための簡単な本の修理』

高岡容子、少年写真新聞社（2019）

< P 13～16の読み聞かせについて >

- ☛ 『読み聞かせわくわくハンドブック～家庭から学校まで～』

代田知子、一声社（2001）

- ☛ 横浜市ホームページ 『ボランティア活動お役立ち情報』
本の修理や読み聞かせの方法が具体的に紹介されています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/library/fororganization/forgroup/oyakudachi/volunteer.html>



このハンドブックは、県教育委員会のホームページの中の「かながわ読書のススメ」からダウンロードすることができます。商業用を除き、自由にご活用ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/dokushonosusume.html>

< 監修 >

- ・公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）

< 表紙イラスト >

- ・神奈川県立図書館 伊津美 泉



学校図書館ボランティアハンドブック ～ 子どもと本の架け橋に ～
令和3年3月